

# ご教示願います！ SDGsの取り組み方

Vol.19

2023年現在、新型コロナウイルス感染症拡大に相まったIoTや5Gの普及加速、LED照明に代表される省エネについての提案営業、脱炭素社会の実現（カーボンニュートラル）、太陽光発電、蓄電池などエネルギー分野の発展、建築業界における働き方改革など、私達、電材業界が取り組まなければならない社会的・環境的貢献課題は、まさにSDGsの課題そのものです。

しかしながら、「SDGsに取り組みたいが、どのようにして進めていけばよいか分からない」という声を多く頂いた事から、すでにSDGsに取り組まれている会社様へ緊急取材をお願いし、SDGsとは何なのか、取り組み事のメリットなどをお伺いし、組合員会社様のSDGs取り組み会社増へと繋げる記事を連載致します。

第19回目の今回は、東京単組所属の株式会社正光社様を訪問し、中澤康祐代表取締役社長にお話を伺いました。



## 縁を大切にすることを意識して大事に

様々な会社様で里山再生活動に取り組んで頂けるのであれば、御願ひしたい

事務局 正光社様のHPを拝見し、里山の再生活動に対して大変興味を持ちました。SDGs目標15「陸の豊かさを守ろう」に繋がる活動や林業関連とはなかなか結び付きにくい電材卸会社様が、どういった理由で取り組まれたのかご教示頂けないでしょうか。

中澤社長 SDGsという言葉が流行する前からCO<sub>2</sub>の削減や省エネの重要性が謳われていました。弊社では25年以上前にISOを取得し、省エネ機器の販売や環境問題に対して取り組んできました。その流れの中、15年程前に、福島県会津出身の役員から提案があり、環境教

育の場として、里山再生活動を始めようと考え、里山を購入しました。

たまたまご縁があつて始めましたが、東京から福島までは距離が離れていますし、その土地も重機が通れないような所でした。私達だけではどうにも出来そうにありませんでしたが、「NPO法人福島県もりの案内人の会」会津支部の方々を知り合い、一緒に里山再生活動を行う事になりました。

始めてから10数年経つていますが、自然の相手は難しいです。一番大変なのは車が入っていない事。7ヘクタール（東京ドーム1.5個分）程の規模がありますから、整備も大変ですが、1年間何もしないと元の状態に戻ってしまいます。

費用は、NPOの方々には手間賃と消耗品分の費用がかかるだけです、銀行



里山が廃れると住処としていた生物達が人里に出没して人間に危害を加える事があり、現代社会問題の1つです。

のSDGs支援制度を利用して、植林・植樹を行っていますので、そこまではかかっていません。

里山では、主に会津の子ども達を集めて、自然観察や林業体験に活用して頂いたり、コロナ前は年に1回幹部揃って出

向き、NPOの方主催で、現地の整備活動を共同で行う自然交流会を行った事もありました。

現在も月に1度、弊社社員が訪れて、NPOの方と一緒に作業しています。今後、社員の中でこういう活動をするのが好きな社員やOBがいれば任せたいと

思っています。

**事務局** 熊が街に現れるニュースをよく見るようになりましたし、里山が無くなっている事が原因で、整備していないと人間生活に影響が出るという話は大変勉強になりました。

**中澤社長** 私は千葉が地元でして、実家の周りを森に囲まれた環境で育ってきたので、普通の人よりは、関心度は高かったと思います。

今、日本では荒れた山や森が多くなっています。様々な会社様で里山再生活動に取り組んで頂けるのであれば、お願いしたいです。

必要なのは、費用よりも人の力です。普段、里山に住まれている方々からも、何もしない状態よりは、多少なりとも人が入る事で、野生動物が来なくなるという話を聞いています。

**事務局** ちなみに、里山の購入はおいくらほどこでしたか？

**中澤社長** その資料は残っていませんが、数百万レベルです。

**事務局** ご縁だけでここまで取り組まれるのは、大変凄い事だと思います。

**中澤社長** 先達からご縁は大切にす

よう教わってききましたので、意識して大事にしています。どこでどう商売に結びつくかは分からないですし、ご縁が無いと商売は上手くいきません。いつも同じルーティンで過ごすのではなく、自分から掴みに行くかどうかだと思います。

### 古民家を再生したシヨールーム

**事務局** 続いて、HPに掲載されている「ライティングハウス事業」を拝見しまし

て、NPO日本民家再生リサイクル協会にも登録され、古民家再生を一つの文化として次の世代へ引き継ぐ活動に、大変感銘を受けました。SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」に繋がる活動ですが、どういう経緯から発案されたのですか？

**中澤社長** これは、現在の相談役で2代目社長（中澤道夫様）が、シヨールームの建設を長年切望していたことから始まります。メーカー様のシヨールームはメー

カー様の商品しか並べる事が出来ませんし、量販店だと分かりやすい偏った商品しか売れません。弊社の特徴を生かしたシヨールームを作って、様々なメーカ

様の商品を一遍に展示したいという夢を相談役から託されました。

ある日、相談役がたまたま購読した建築雑誌の中に、新潟に住むカール・ベルクスさんというドイツ生まれの方が、日本の古民家再生を行っているという特集が掲載されており、「この人しかいない」と直感が働いた事から、すぐに会いに行き、建設を依頼しました。そうして建てられたのが弊社から徒歩数分にあるライティングハウスTOKYOです。

創業者が新潟出身という事もあり、新潟にあった築150年の古民家を購入しました。解体した後には使える所を探し出し、手直しをして一度図面通りに組み立て、梁の角度調整などを行って、各々使える所に見合った金具を作った後に、再度解体して、亀戸の地へ運びました。

しかしながら、商業地区の亀戸では木造で建てる事が出来ないため、鉄骨で組んだ中に古民家の柱を移築して建設しています。

かなり手間をかけて建てており、日本の伝統的な建築技術とカール・ベルクスさんによるドイツの伝統的な建築技術がミックスされています。



新潟の古民家を東京・亀戸の地でショールームとして再生利用

新潟には古民家が沢山あり、昔は全部取り壊して潰していたのですが、古い建物を守り、再生させることに愛情と情熱を持って取り組んでいるカールさんの想いに弊社相談役も大変感銘を受けたようです。

**事務局** 雑誌を読まれてすぐ連絡される行動の早さが凄いです。費用はどのくらいかかりましたか？

**中澤社長** 結構かかりましたが、元々、弊社は照明の製造と販売からスタートした会社ですので、ショールームを復活さ

せたいという想いも相まり、投資しました。

お陰様で訪問頂いたお客様からは好評を頂いています。コンサート会場として使いたいという演奏家の方からの依頼も多く、貸し出しもしています。ただ、こは、防音設備は入れていませんので、ご近所迷惑にならないように、演奏は基本的に生演奏です。

また、相談役のアイデアから、ものづくり作家の支援事業として、作品展も開催しています。

ただ、本社とは別会社に行っていますので、単独で売上を上げるための運営は大変です。

**事務局** ありがとうございます。では、この後、ライティングハウスに実際に伺い、さらに勉強させて頂きます。

### 伝統や技術、これまでの年月重ねた想いを次世代に繋げる

ここからは、ライティングハウスT.O K.Y.O株式会社を訪問し、インテリアアドバイザー・古賀香代子様からお話を伺いました。

**事務局** 外観も室内も全部素敵です。

**古賀様** 洋風に見えて、どこか日本的な懐かしさもある建物です。弊社の商売畑である照明が温かみのある空間や奥行きを演出し、夕暮れ時からは照明の良さがさらに味わえ、夜になると色味が増して、温かさも倍増します。

この建物はすでに築15年程経っていますが、手直ししながら暮らしていけるように考えられていて、先を見通し、ずっと長く使えるように、暮らしに寄り添う作りになっています。

**事務局** どういう方がお越しになられるのですか？

**古賀様** ショールームとしてだけでなく、ランドピアノを設置して音楽会を行ったり、まだドラマの撮影には使われた事はありませんが、演劇の方から稽古で使いたいというお話を頂いたり、モデルの撮影会場所として使用される事もあります。

音楽会を行うと、音が上に上がって下りてくるのですが、梁に良い意味で音が吸収されて、下りてくる音が柔らかいところで、2階で聴く音が1番良いと好評です。演奏家の方に伺うと、アットホーム



インテリアアドバイザー・古賀様

で、気楽に音楽が聴ける場所と評価頂きました。

建物の珍しさ、中に入れば新しい電気店であり、電気だけではない商品も揃えていますので、利用される年代の幅も広く、様々な業種の方々に興味をお持ちになってご利用頂いています。

また、2階には業者様との商談スペースも設けています。照明だけでなく、カーテンやブラインドもコーディネートできるようなカタログを取り揃えています。

**事務局** 古民家カフェの運営を夢見て、見学に来られる方も多いですか？

**古賀様** 多いです。あとは田舎の実家の継承問題として、家が古いけれど解体するのは寂しいというご相談も頂きます。日本民家再生リサイクル協会に入ってい

ますので、木の売買や木材の活かし方等はそちらに相談頂くようにし、こういう建物を建てたいというご相談は、カー・ベックス様を紹介するようにしています。

新築のご相談を頂いた際は、全てを新しくする必要はなく、今まで使用していた愛着のある物や使える物は全部使いましよと提案しています。古い建物は全て壊して新しくするのはなく、使える物があれば使い続け、次に繋げる、残していく意味もあるというお話もさせて頂いています。

**事務局** SDGsな建築提案ですね。

**古賀様** こういうご相談は、実家が田舎の方が多いです。工務店様に御願いと全て解体されてしまったり、良い木は持つていかれる事もあります。

伝統や技術、これまでの年月重ねた想いが家にはあるので、捨てずに生かす方法、次に繋げる方法を考えたお話をすることを意識しています。

**事務局** こういう問題は日本全国あるはずなので、読者の会社様が挑戦される価値はあるのではと感じました。

**古賀様** 需要はかなりあります。古い家

は電気の部分が心許ないので、点検や製品を新しくするなど、安全に、かつ古き良き物と一緒に生活していけるように手を加えていく事が大事だと思います。

**事務局** こういう仕事は電気工事店ではないと難しいでしょうね。新しく参入してくる電気の会社様では手を付けられないニーズかもしれないと感じました。



## 正光社様から伺った SDGsに取り組むポイント

- 1、NPO法人と一緒に取り組んだり、銀行のSDGs支援制度を利用する事で費用負担を防げる。また、新たな縁や商売が広がるチャンスも生まれる。
- 2、縁を掴むためには、いつも同じルーティンで過ごすのではなく、自分から掴みに行く。



過去の掲載分は、全日電材連ホームページ「SDGsへの取り組み」にて掲載中。

<https://www.jeda.or.jp/sdgs.html#sdgsNews>

※SDGsに取り組み、取材許可を頂ける会社様がございましたら、全社伺わせて頂きます。全日電材連・事務局・伊達までご連絡下さい。(03-3541-7192)